



創業は明治 10 年、名張の「写真の川地」  
 オーナーフォトグラファーは 5 代目川地清広氏。  
 川地清広氏は写専の卒業生。10 年後、20 年度に  
 写真を見たとき、思い出が蘇る写真をお届けしたい。  
 これがポリシーと熱く語る。

川地 清広 × 満子

SHASEN

小林 雅典

安田 江輝

山崎 真一郎

小林 朱里

西垣 亮祐

©写真の川地

## UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.25

写真は機械が撮るものではなく 人間だ

## UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY



川地 清広 (かわち きよひろ)  
 写真の川地 創業 明治 10 年 5 代目 代表取締役

(協) 日本写真館協会副理事長  
 (協) 三重県写真館協会理事長

富士フィルム営業写真コンテスト金賞 1 回 (2010 年)  
 富士フィルム営業写真コンテスト銀賞 1 回  
 富士フィルム営業写真コンテスト銅賞 3 回  
 富士フィルム営業写真コンテスト入選 8 回  
 東海四県写真コンクール金賞 3 回  
 コダックポートレートコンテスト特選・入選 9 回  
 コダックポートレートコンテスト 1992 年グランプリ受賞  
 富士フォトコンテスト アルバム優秀賞 (2009 年)

©写真の川地

写専を卒業して 51 年目です。日本写真館協会副理事長、三重県写真館協会理事長、全国を飛び回る講演会、そして母校での特別授業等々、実にお忙しい方である。現在、「写真の川地」には本校卒業生 5 名が勤務している。いわば川地先生の子どもたちである。

その中で 1 番長くいるのが写専 2012 年卒の西垣亮祐さん (25)「彼は言う「先生はオシャレなんです。ちょい悪オヤジのイメージがありますが、車はボルシェ、ジーンズも高級品ですよ」(笑) 2 番目は写専 2013 年卒の小林朱里さん (24)「先生の光の研究はスゴイものがあります。1600 年代に活躍したオランダの画家レンブラントのように先生はポートレートを撮る時は光と影にスゴくこだわります。そこが私たちの尊敬する点です」3 番目は 2014 年卒の安田江輝さん (23)「スタジオの中庭でみんなを集めてパーベキューをして下さるんです。これが最高に楽しいですね。お肉が大好きですから(爆笑) 自然光がたつぷりと差し込む中庭での食事会。このコミュニケーションに 10 年以上続くヒントがあります。4 番目は 2016 年卒の小林雅典さん

(21)と山崎真一郎さん (21) この 2 人は新人ほやほやである。新人が言う「僕ら 2 人共、地元名張の出身なんです。中学・高校時代共に川地先生に写真を撮っていただきました。学校に来て写真を撮る川地先生はめちゃカッコいいんです。それで、僕は先生に憧れてカメラマンを目指して、先生の卒業した写真学校に入學したんです。先生のスタイルをもっと勉強したくて半ば強引に会社に入れていただきました(笑) いくつかは女の子にモテモテになってボルシェを乗り回したいという強い願望が見ええるようです。

川地先生は、時にスタッフを集めて勉強会を開くと言う。なぜ、こんな構図にしたのか「この人の魅力はこうして表す」とい、「とか、最新のデジタルカメラの研究、実験も怠らない。100 年以上前に生まれたハンガリーの写真家アンドレ・ケルテスと言った「写真は、機械が撮るものではなく、人間だ」被写体とう向き合うかが一番大切であることを先生は可愛い子どもたちにも教えているという。愛情と情熱がフル回転のタフなエンジンを持ったカメラマンである。(は)